

令和7年度 広島大学附属三原小学校・中学校 学校経営方針

自伸会信条（「自ら伸びよ」）（大正13年制定）

- 一 私たちは 私たちの力で伸びていこう
- 一 私たちは 人のためにつくして感謝しよう
- 一 私たちは 私たちのきまりを尊重しよう

目指す学校像

子供にとっての三原学校園

自己実現に向けて資質・能力を高める、入園入学してよかったと思える学校園。

教師にとっての三原学校園

教師としての力量を高める、働くことができよかったと思える学校園。

地域にとっての三原学校園

教育研究を牽引するとともに、課題解決・人材育成に貢献できる学校園。

学校経営理念

幼小中一貫教育を基盤とする教育研究・教育実習・教員研修に取り組み、広島大学附属学校にふさわしい指導的役割を果たす。また、教職員の研究・研修センターとして地域に貢献することを目指す。

中期経営計画(2023～2025)

附属三原学校園でなければ提供できない教育・研究を展開して「**選ばれる学校**」を目指す。

○教育研究・教育実践

- ・学校園が直面する教育課題を具体化し、解決を試みる。
- ・研究開発学校の指定を得て先進的な教育モデルを提供する。
- ・学校園・個人研究の両方で、大学・学部との連携・共同研究を進める。
- ・異校種間交流を計画的に進める。

○人材育成

- ・行事・業務・システムの見直しを進め業務の効率化を図る。
- ・人材確保の困難を改善するため、非常勤講師を積極的にサポートする。

○地域貢献

- ・積極的な情報発信によって、教育研究の成果を広く伝えとともに、保護者の意識改革を図り学校と保護者との協力関係を築く。

2025年度学校経営方針

教育研究・教育実践

○教育課程特例校制度のもと学力向上に努める

- ・「光輝」の実践を通して、汎用的な接続カリキュラムを作成し、実践する。
- ・「光輝」の授業と体系的な学習指導・生徒指導を一体的に行い、子供自身が成長を実感できる実践を行う。
- ・これまでの「光輝」の総括を進め、次期研究開発の方向を確定する。

○小学校・中学校が連携して学力向上の取り組みを進める。

- ・異校種間交流・異学年交流を計画的に進める。
- ・基礎学力定着についての研究を進め、連絡入学制度について広い視野から見直し作業を進める。
- ・連絡入学制度の利点を活かして、コミュニケーションとレジリエンスの基本技能の習得を継続的・

計画的に進める。

- STEAM 教育 (Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics) , ESD (Education for Sustainable Development) 等の先導的な実験的カリキュラムの導入可能性を検討し, 可能な範囲で盛り込む。

生徒指導

- 発達支援的生徒指導によって, 子どもの人間力を高め, 自己肯定感を育むことで, 生徒指導において地域の拠点校となる。
 - ・「光輝」の授業・個別科目・行事等を通して, 自己理解力・コミュニケーション力・共感性等を含む社会的資質・能力を育成する。
 - ・子供のコミュニケーション能力を向上させて, いじめの起こり難い良好な人間関係を構築する。
 - ・子どもの学力や生活状況(Q-U, いじめアンケート等)に関するデータを収集・分析する。

人材育成

- 学校園における全ての業務を自己能力の伸長過程と捉え, 自らの成長を俯瞰的に評価し記録する。
- 校種に応じた業務の遂行にとどまらず, 校種の違いを尊重し合いながら, 経営資源(ヒト, モノ, カネ, ジカン)を効率よく活用し, 時間管理と個々の働きやすさを追求する。
- 業務内容の精選や校務分掌の平準化, 時間割の弾力的運用等を行い, 一人あたりの月時間外労働を 38 時間未満とする。
- 教育実習については, 実習満足度を高水準に保つとともに, 指導する側も自らの教育実践を見直す場として「気づき」を大切にする。
- 非常勤講師のサポート体制を作り, 実践する。

地域貢献・広報

- 「わかりやすさ」を追求した情報発信を行うとともに, 他の学校園からの依頼(研究協力や講師派遣, 学校園視察等)には積極的に応じる。
- 地域教育機関と連携して取り組んだ, 全国的に見られる地域課題の解決に向けた研究について, 取組状況を発信していく。
- 保護者に対して, 附属三原らしい教育活動とその成果を分かりやすく説明し, 学校経営に対する理解を深めていく。
- HP中のコンテンツや他に発信したものに, 受信者からの評価が得られる工夫を行い, 発信内容・方法を改善していく。